

外から見て、改めて知った大洲の魅力

高校生のころから、将来は「機械工学」か「観光」に関わる仕事がしたいと考えていました。高校卒業後は大学の工学部へ進学しましたが、転機になったのはサイクリング部での経験です。自転車で日本各地を巡る中で、改めて「やっぱり大洲はいい町だ」と再認識しました。さらに大学3年生のころ、大洲でキャスルステイが始まったというニュースを目にし、「こんな面白いことをしているなら、大洲に帰って観光の仕事がしたい」と思うようになりました。とはいえ、すぐに戻っても役に立てないと考え、まずは松山のIT企業に就職。2年間、社会人としての経験を積んだ後にUターンし、2024年にキタ・マネジメントへ入社しました。現在は、プロモーションやマーケティング、イベント企画など幅広い業務を担当しています。

仕事で大切にしているのは、「観光で地域にもお金が落ちる仕組み」をつくることです。観光客が買い物や食事をして、そこでは大洲産の素材が使われている——そんな循環が生まれれば、観光に直接関わらない事業者にも利益が広がります。そうでなければ、まちづくりは長く続きません。一方で、観光客の増加が住民の暮らしの妨げになってはいけません。観光と生活のバランスを保つ難しさを、日々実感しています。

私にとって、大洲城は特別な場所です。母方の祖父は市役所職員として、父方の祖父は大工として城の復元に関わり、私自身も中学生の職場体験を大洲城で行いました。思い出のある場所だからこそ、市民も楽しめるイベントを企画し、「大洲城ってすごい」と誇りに思ってもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。

空き家が増え、解体されて駐車場や空き地になると町の魅力は失われます。これまで進められてきた古民家再生によって生まれた店が、観光客だけでなく地域の人々の楽しみの場となり、「大洲に住んでいて楽しい」と感じられる町にしていくことが私の目標です。

未来を拓く

～次代へつなぐ～



(一社)キタ・マネジメント

企画広報係

三好 ^{あすか}飛鳥 さん

肱南地区で生まれ育ち、観光を通して人と町をつなぎ、この町の未来づくりに取り組む27歳。

趣味は読書とバレーボール。

大洲の風景



春のワンマン列車(喜多山) 3月5日(木)撮影

今月の表紙



高齢者レクリエーション大会の種目「ボウリング」での一コマ。久しぶりの開催にみなさん気合十分。

狙いを定めて放たれた一投、ボールの行方はいかに――。